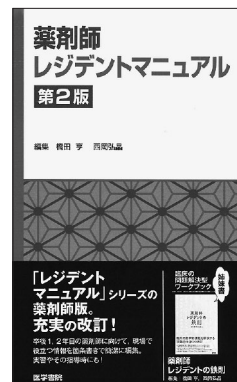


BOOK Review

薬剤師レジデントマニュアル 第2版



評者

石井 伊都子 千葉大病院薬剤部部長・教授

薬剤師国家試験に合格し、薬剤師として意気揚々と入職する。しかし、初日から「え～っ、わからない?」「何だったっけ?」「実習中にやったかも～、でも、駄目だ!!」と、新人薬剤師は戸惑い、冷や汗をかきながら日々を送っていることでしょう。皆通る道であり、誰にも避けることはできません。しかし、本書『薬剤師レジデントマニュアル 第2版』があれば、少しでも効率的に問題を解決し、冷や汗の量も減るのでないでしょうか。

本書は、前半に薬剤師業務の基礎となる項目を、後半には病棟業務中央業務で役立つ知識が章立てられています。当院の薬剤師レジデントは本書について「基本的な薬物治療が述べられているので、特に苦手な分野の導入として良い。『薬剤師による薬学的ケア』の項目は、薬剤師ならではの視点が盛り込まれている。副作用とその対処法が併記されているので治療への介入の手助けになる。『処方提案のポイント』を参考にすることで、治療におけるピットフォールに気付くことができる。処方提案のポイントは簡単すぎる感じがするが、自分で深く調べるきっかけになる」など、現場で頻回に使用する医薬品が掲載されていて便利との意見が挙がりました。一方、指導的な立場にある中堅薬剤師からは、「ベースに加え

少し発展的なところも記載されているため、新人がポイントをつかみやすい。指導する側も本書をチェックすることでポイントの抜けがなくなる。疾患ごとの章は、症例や薬学的ケアの解説も盛り込まれていて、ポケットサイズの判型から想像する以上に内容が充実している。病棟で持ち歩いてほしい。医薬品の使用法に関しては、現場で汎用されている例も盛り込まれており、より実践的である」との意見をもらいました。

このところ、病院では新人薬剤師に対してレジデント制度を導入する施設が増えています。各施設はそれぞれ頭を悩ませながらプログラムを組み、いかに新人薬剤師が的確に業務を理解し、少しでも早く一人前の薬剤師として業務に取り組めるようにするかを常に考えていることでしょう。それには、基本的なテキストが必要です。本書は、網羅的でありかつ処方の実例を含め実践的に記載されているため、新人薬剤師にとってうってつけのテキストです。新人は新人でも薬剤師であって学生ではありません。「新人の基本の書」として本書をポケットに忍ばせ、これまでより大きく深い一歩を踏み出していただきたいと思います。

橋田 亨, 西岡 弘晶 編

B6変型判/426頁/2018年/定価(本体3,400円+税)/ISBN978-4-260-03263-6/医学書院刊